

2016年1~3月期プレスリリース

わが青春の「同棲時代」

上村一夫×**美女**解体新書展

KAMIMURA
KAZUO

愛はいつも

いくつかの過ちに

満たされている……



① 『同棲時代 第6集』 (双葉社) 表紙原画 / 昭和48年12月

2016年1月3日(日) ~ 3月27日(日)

弥生美術館



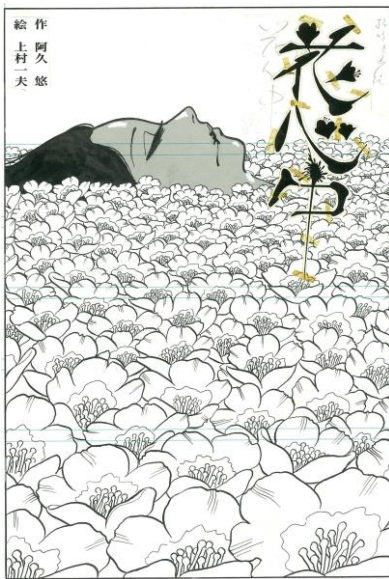
ご挨拶

1970年代初頭、大ヒット漫画「同棲時代」によって一大センセーションを巻き起こし、時代の寵児となった漫画家・上村一夫（1940～1986）。

上村は、アクションが主流だった劇画の世界で、男性の添え物でしかなかった女性を初めて主人公として描きました。「描きたい風景（画面）のためにストーリーを考え、そこに辿り着くためにいろいろなコマを並べ配していく」。これが上村独自の手法でした。「昭和の絵師」「劇画界の竹久夢二」などと形容された上村は、甘美な抒情で彩られた女性の心象風景を得意としました。流麗なタッチでの心理描写には、上村の感性が随所で光っています。生々しい女の業を描くことのできた稀代の漫画家・上村一夫。女を描くために天が与えた画才といえるでしょう。

月産400枚以上という驚異的なスピードで数々の傑作を世に送り出し、45歳で急逝してから30年——。現在も幅広い年齢層の熱狂的なファンに支持され、欧州を中心とした海外でも高い評価を受けています。

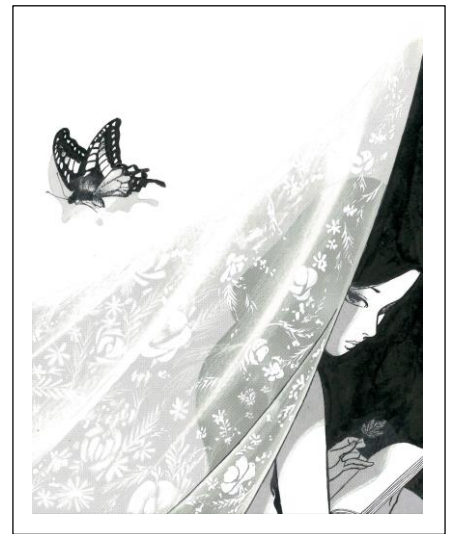
本展では、上村の代名詞ともいえる「美女」作品を中心に、徹底した上村美学を、原画や関連資料など初公開を含む約500点で展覽いたします。



② 阿久悠・原作「花心中」扉絵原画
／『ヤングレディ』1973年10/29号



③ 岡崎英生・原作「しなの川」原画
／『ヤングコミック』1973年3/14号



④ 久世光彦・原作「螢子」原画
／『週刊女性』1976年9/7号

大ヒット!

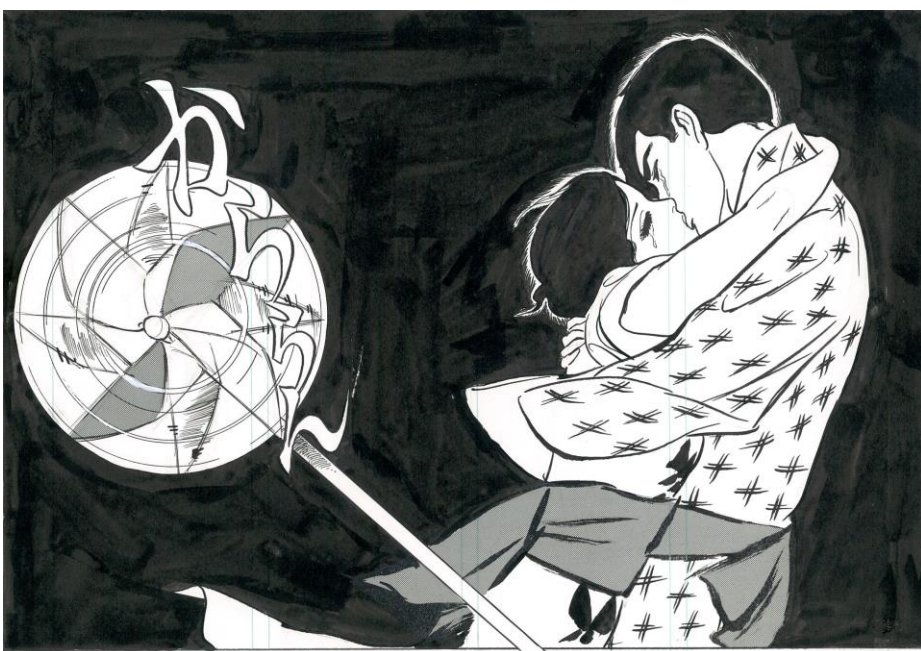
「同棲時代」とは?

「劇画史に一時代を画した」と評される、上村一夫最大の超ヒット作。10回程度の連載予定が、80回の長期連載となり、「同棲」は流行語ともなっており一大センセーションを巻き起こした。

イラストレーターの卵の次郎と小さな広告会社に勤めるOLの今日子の二人は、アパートでの同棲生活を始める。仕事も恋愛もセックスも中途半端に、そして、二人の未来もあいまいなまま、ささやかで不確かな幸せはやがて、今日子の妊娠、墮胎、発狂と、破滅への道をたどり崩壊していく。

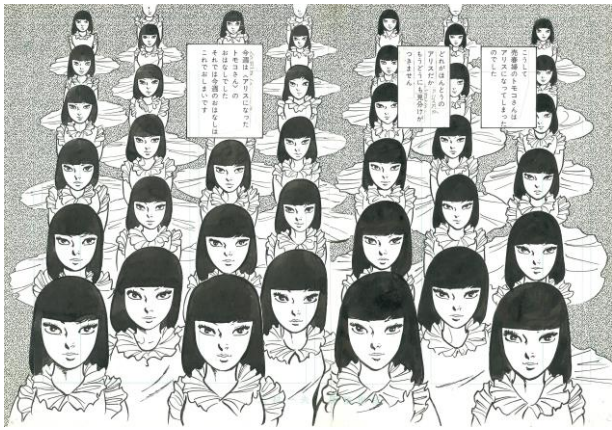
あふれ出す美しい文学的モノローグや大胆な画面構成とグラフィカルなコマ割りも素晴らしく、はっと息を飲むほど劇的で美しいシーンが次々と眼に飛び込む。

全6巻出版された単行本はベストセラーとなり、大信田礼子が歌った主題歌も大ヒット。1973年にはTBS系でドラマ化され、今日子を梶芽衣子が、次郎を沢田研二が演じた。さらに由美かおると仲雅美主演で映画化もされた。



⑤ 「同棲時代」原画
／『Weekly 漫画アクション』1972年8/31号

なぜだろう?
愛という名の花の畑に
しあわせよりも
ふしあわせがとでもたくさん
咲いているのは——
「同棲時代」より



⑥岡崎英生・原作「夢師アリス」原画

／『ヤングコミック』1974年7/24号
 人の夢を自在に操る美貌の少女・夢師アリスは大人たちを憎しみの無限地獄に誘い、破滅の世界を見せていく。



⑦「素肌美人」資生堂広告ポスター／1980年

甘美なる抒情、
 あふれ出す詩情、
 背徳のエロス……

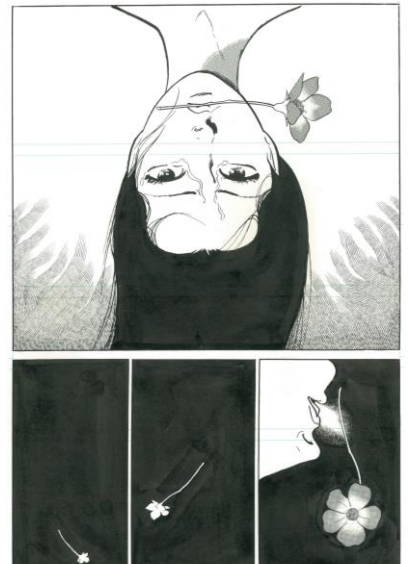


⑧『ヤングコミック』表紙原画
 ／1974年3/27号



⑨小池一雄・原作「修羅雪姫」原画

／『Weekly プレイボーイ』1972年3/7号
 母の恨みを晴らすために女子監獄内で生を受けた修羅の子・雪は、父を殺した者たちに復讐するため厳しい修行に耐え、女刺客人となって過酷な旅を続ける。



⑩岡崎英生・原作「悪の華」原画
 ／『漫画エロトピア』1975年3/6号

図版はすべて上村一夫・画／上村一夫オフィス蔵です

★ココがみどころ！★

- ① 没後30年を記念した本格的回顧展です。
- ② 原画を多数展示します。
- ③ 上村一夫の長女・上村汀さんを始め、スペシャルゲストを迎えたトークショーや音楽イベントを予定しています。
- ④ 会期中に命日(1/11)と誕生日(3/7)を迎えます。1/11には、上村汀さんをゲストに、ギャラリートークを行います。
- ⑤ 第1会場のテーマは「美女解体新書」。上村作品の中から50タイトルを厳選し、主人公の美女50人を一挙展示。
- ⑥ 第2会場のテーマは「上村一夫の世界」。デビューから45歳で急逝するまでの軌跡をご紹介します。上村美学をご堪能いただけます。



⑪「関東平野」屏絵原画
 ／『ヤングコミック』1977年3/23号
 終戦直後の混乱期、幼くして両親を亡くした少年・金太が多感な少年時代を生き、成長していく。上村が自らの半生をモデルに描いた自伝的战後史。

上村一夫
(かみむらかずお)
プロフィール



1940年(昭和15)3月7日、神奈川県横須賀市生まれ。
1962年(昭和37)、武蔵野美術大学デザイン科卒業。在学中に広告代理店・宣弘社でアルバイトをし、同社員の深田公之(のちの阿久悠)と知り合ったことから、後に劇画の世界に入る。
1967年(昭和42)、『月刊タウン』創刊号「カワイコ小百合ちゃんの墮落」でデビュー。翌年、『平凡パンチ』連載の「バラダ」(原作・阿久悠)で本格的に劇画進出。
以後、「同棲時代」、「修羅雪姫」(原作・小池一夫)、「しなの川」(原作・岡崎英生)など抒情的な名作を次々と発表。流麗な筆画から”昭和の絵師”と称され、月産400枚の原稿を手掛ける多忙さを極めた。
1985年11月、下咽頭癌で入院し、翌1986年(昭和61)1月11日、急逝。享年45。

展覧会に併せて国書刊行会より画集刊行!



144頁/オールカラー
/3200円(本体価格)
待望の豪華画集です!

記念イベントのお知らせ

◆トークショー◆

事前申込制。有料。内容詳細は美術館HPにて。

3月5日(土) 17:30~

糸井重里(ほぼ日刊イトイ新聞主宰) × 上村汀(上村一夫長女)

3月12日(土) 17:30~

深田太郎(阿久悠長男) × 上村汀(上村一夫長女)

3月20日(日) 17:30~

岡崎英生(元劇画原作者) × 寛悟(編集プロデューサー)
× 森田敏也(劇画研究者) × 上村汀(上村一夫長女)

◆音楽イベント◆

事前申込制。有料。内容詳細は美術館HPにて。

3月19日(土) 18:00~

曾我部恵一ミニライブ

◆ギャラリートーク◆

申込不要。無料(要入館料)

ゲスト/上村汀(上村一夫長女)

・1月11日(月祝) 14:00~★命日です!

・2月14日(日) 14:00~



◆開催要項◆

◆展覧会名称 **わが青春の「同棲時代」 上村一夫 × 美女解体新書展**

◆主催・会場 弥生美術館

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3

◆TEL 03-3812-0012

◆会期 2016年(平成28)1/3(日)~3/27(日)

◆休館日 月曜日(ただし、1/11・3/21(月祝)開館、1/12・3/22(火)休館)

◆開館時間 午前10:00~午後5:00(入館は午後4:30まで)

◆入館料 一般900円/大・高生800円/中・小生400円

(団体20名様以上、お一人様100円引き)

※併設の竹久夢二美術館「夢二をめぐる人々展」も併せてご覧いただけます。

◆交通 東京メトロ千代田線〈根津駅〉または、

東京メトロ南北線〈東大前駅〉より

いずれも徒歩約7分。

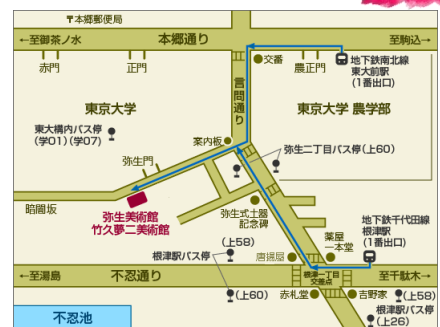
JR上野駅 公園口より徒歩約20分。

◆ホームページ <http://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

Twitter(毎日更新中!)、Facebookもご覧ください!

◆出展点数 原画、雑誌など約500点

◆特別協力 上村一夫オフィス





担当・松本行

弥生美術館
わが青春の「同棲時代」上村一夫×美女解体新書展
画像使用申込書



画像送付日…… 月 日必着

掲載誌（紙）名・番組名・WEB サイト名	
発売日／放送・更新予定日	
御社名・所属／ご担当者名	
ご住所 〒 —	
E-mail	
TEL ()	FAX ()
通信欄	

◆作品画像データの提供について

同封のプレスリリースでご紹介している図版 11 点について、画像データをご用意しております。貸出をご希望の場合は、本紙に必要事項をご記入の上、FAX : 03-3812-0699 までお申し込みください。美術館の外観写真等、他に必要とされる資料がございましたらお手数ですが担当までご連絡ください。

TEL : 03-3812-0012 / e-mail : yayoi-m@muse.ocn.ne.jp (担当:松本)

◆ご希望の図版No.に○印をご記入ください。

図版番号 (No.とキャプションはプレスリリースをご参照ください。)										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

(使用後のデータは速やかに消去ください。画像の二次使用はご遠慮ください)

◆読者プレゼント用にご招待券をご用意しております。
ご希望の際は○をご記入ください。

5組 10名様	希望する
---------	------

◆掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する情報記事をご掲載いただいた際には、掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。

【送り先】 〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-3 弥生美術館 担当：松本宛て